吾妻の道芝

特別
ル3
3198

門ル3
號3198
巻

門ル4
號1007
巻

宮内省圖書寮

長書法道芝

松平秀雲

幸甚の春　君初めて東都邸館小憩後
まづ〳〵ちゝ宮長ゝ侍るべし何
れも御安否伺ひ申さんと門子
或は故舊の人々待受て婦人別室
惜き又御食を捧げ別室を設け
水中花の乘　東都乃邸を発し

終夕歩行かん同僚たち同き同張
府を発もつ生子の久しくるれもつひー
人々に手集里道別の詩を作りしかハ
余も一首を作りぬ

四月十四夜発張別府諸子見送
席上留別 此夕雷雨至夜開霽故句中及此

銀燭影当祖帳飜諸君車馬到衙門揮毫
新製東征賦投轄猶開北海尊隱々軽雷
驅宿雨溶々明月送黄昏預期晝錦歸来
日共看挑花滿故園

徒子乃和章わすしかく文整々れは附添ハ
載傳曰況忘武し和歌を称ス
人々うしわすれ切ハ也桜の花
やどりは春ハ来ぬ待てとも
返し
春の来る時ハたゝ家とまち

とゝ為りこゝん東海のほ
とゝ短夜し曉近く鳥の初て急し告るに
有樂引籠て門を出て九軍ふるう
きはふはつ逆うとて平忠勇やと
屋ゝくいしもわれなりつ男子物
そ為りね幽行玄義こいひ毒はハ吗海と
しけりうんとそしてふ忠武ゝ平七泰ゝ
そふ逆うれ行ぬ若宮ふ列参ス同僚ゝ

未ダ有未ダ知ル時代ハ我々ハ皆
来りぬ乎ハ若ハ若ハ道中の憲法と可存
為ス別　命を蒙りしかは同僚たの
論を押して内賛田徳樽亭ふ列ス
法子を師ゝ若ハ千廷義衡有切
令公憲の二字はつふをて逆ゝ平
憲頂を絶りしかそれを弱かりて
別を情を絶自一章を紙ス

蓬島旗亭ニ謝ス諸君見送
東門通驛踏千里賦長征頼ニ有故人酒暫
忘ニ離別情
廷美子藤秀雅ハ敏捷のすわる志
なれハ業をよりて是を和漢より
皆師とせね幽竹無葉の云ぞ論をうけつぎて
筆る事までて別意ね閑傳たさまへ
れしかえ家々かちより鳴海を過ぎね

旅人ハ老く鳴海のうらなるを
わつりこんほをとみてまつし
有松の茶店ニ休ねし京の木綿布を
さかり染をも商ふ家々あし 其の名の
先ハ小松の果くさまひたり田楽が
家なん云ふは遠くさり 是川義元忠
誠ありて草苔無繁戦功を傳へ
後縁の世ニ人々のなれをさ更ふらく

[illegible]ぬ[illegible]川をたへて今眺
[illegible]つ[illegible]つ[illegible]時[illegible]て
見[illegible]一面之[illegible]屋[illegible]形あり[illegible]て
あ[illegible]ぬ[illegible]花小[illegible]の花[illegible]の小[illegible]
立て[illegible]人[illegible]とそむ[illegible]
[illegible]の[illegible]利[illegible]れん[illegible]
[illegible]
[illegible]れて[illegible]

むくけ[illegible]の郭公
あけ[illegible]れ[illegible]雲[illegible]なくなり
池[illegible]の[illegible]小[illegible]て[illegible]は[illegible]
[illegible]小[illegible]元[illegible]
[illegible]小[illegible]
[illegible]
[illegible]小[illegible]
[illegible]
[illegible]て
[illegible]
池[illegible]の町[illegible]の[illegible]大池[illegible]

沈鐘新の所に見ふ侍りてなりと云ふ和
名抄ふ鴉頭海邪知立とあれは色
有文字ふすりて附舎せ所やうに沈ふ
水茎の岩隠るゝ松をうえて
藻花や秋も加てを水こゝろ色
七逢ふ小松の末ぎとふ事繁多わりて
時々見は水茎所謂蟬毎とふおと
不の赤小松も見ふなる後遠の松林に

猶小角時代とて
所見ふ見せ小松も利て侍るこゝ
の岸ふ見れる首ふ人しかとと匹
古云芦に和れ所ふ見ぬ一半里こゝ
ヨ行て左の方小石碑にて八橋の道ふ
と記ふ所ふ所ふ過ぎなりとあと時移り
道かりて行と見て
洛断古橋名未亡征依鴈淚沾裳中郎一ヒ

去無人見野水誰尋杜若香

夫剣の橋はかすかにして遠くを宛然の勢をあ
空めりかゝる水の池を寄る道のたゆ長者後
数偉弼理の墓をとゝにかと憲宗の持
勢に縁をもて立てもて造作りぬ千年を
まかゝるとまるまるまる保あれて弟ふしぬ
思ふの城市林小紙
あまて高安立ちゝ

神祖の除誕ましく存ぜられ能居寺
ゆきを理小そ松平の山を遠く見へ大樹寺
積翠こゝ〳〵さゝ私の稚子孫を放
君を見伝ふ寺とを年間後の命を
業り伝すいいて加持地をえ越化と
見いとそかゝ赤りえかゝきを家宝
の蓮連り伝生は
たのむそよ松のもとをの深ゝ

おなじ　おなじ　の名をうけて
蜀濤寺　または　本尊　の名をうけ　御
創基の　おもむき　伝のまま　なるべき　也
なれど　なほ　この　伝　ふかく　なれ　ぬ
義川　ふかく　また　松原　の　ふかなま　老る　比丘
尼　ふかく　絵　ふかく　俗　僧　と　作り　旅人　の　袖　ふか
かりて　涙　を　ながし　給　ふ　哀　ぬ　ふかく　も　ま
ほ　ふかく　なり　ぬ

山　本　ふかく　ハ　京　地　ふかく　いとし　と　も　持　流　天　皇
妃　宮　おはし　ます　と　ぞ　いと　ふかく　て　元　宮
の　迹　と　ま　ま　ま　作　れ　と　ゆく　と　同　へ　元　ま　ま　の
を　な　す　ま　ま　に　ハ　庫　の　紐　費　ま　ま　作　り
作　ふ　ま　ま　わ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
費　作　る
佐　義　寺　を　通　ま　ま　ま　ふ　あ　て　ま　る　招　提　や
神　祖　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

今ハ有つの侍ハ老松 偃蹇う・神祖の
恵しのまし〻 桂ちゝを〻ぬ〻り 淵拾し
仏仏書来の 桂ちんと書る時 塙長の法
ありて 無い録とを生やしてを〻ぬ〻を
書仏書ハ寺代 俗 塙長の〻ハ〻ちうし〻
恃和さ学ちゝ放ハや
義川〻赤坂の〻ちうち妹ハ を〻光
〻〻 智篤 畢 仏書者の〻ハ〻ハ書〻寺

院の陳述ちて望 程ゝを〻 羅漢の号を
ちうて かつや
赤坂〻他の〻ちこちハ小川女
タ〻みハいやちうち 彩のうれぬ〻ちれ
鬱金 ちう 仏書とあれて 御他の〻ハ
そ〻ちうぬ 在を〻れハ 病ハ入ぬ〻と号
した金ハ 打 ちう 号 俗 ちうハ 起 ちて 行
法府を過て 病あ千ぬ 富の大橋ハ 英

利根を遡ぼりて形いとよ
高の町にて小舟に乗り
ハとせまくなりて穴口（ホクチ）の渡
樵人小屋有

二川を過て信濃川あり此過こゝ大地茶
木の茶屋、家屋敷の地小間しくして
なる小三川屋敷と地名付なるなる
友小や白沼茶屋 此過きあり此辺也

日光茶屋より人馬もつれぬ地にて笹山を
過て籠を脱し一鉢蓮の花咲けり
此辺より山高く谷深く山中を是
付る白沼茶屋より東北に腐鮑魚を出
て海の遠きこゝ形小屋有 俗原
かゝる茶屋にて後民の根と 俗
白沼茶屋より東の国に蔓菁の長
なるもの 高小屋 此の茶の如

人宗門の事柱立て人民風俗は
常の業等小河とて本草家俗
称蕎麦菜是なり
樹の馬場小根もちらり白雪て名ゆく
まい傳説なるの事小色て蓋
落おもりとむ元来なるは之る
人元なり
くいねまりまりやぶむけ生は

樹の天人場のかハ俳とは
潮入坂ハ上りて富士うん原面を望
又人家の後をとるのこと
白隠和尚下り坂すりうん寺をは波の
ちらり秋彩をすしもちろ原つやー景色
なるなり

潮見坂

長坂逶迤捫蘿青山盡処接烟波遠江

如練雲如畫疑而白團扇裡過

蓋遠国にて形容の淡き事を同像と
共に美しこと不ふと風流なるとの志
昔来の列仙の舞仮ふ法を伝ふる事
なく人々知るべくして無てるを
舞仮ふ法を伝へ行ての後ふ竹と
いふ事なり第一節ふ竹ふ似て竹は

色黒竹と可申拙者て皮を脱せし
伝黄色ふ入へ一竹節の間長き事
いへるを竹といへる節は六月生じ笛ふ
低好き竹此笛と云ふ是毛と第ふ漢
竹ふて低好き笛とは高て吹き後
竹ふ七種と成り来り成花竹
しを誤伝ふ竹譜や戴凱之ふ竹譜ふ
所謂笛竹一節尺餘出呉楚是なり

濱松をき蓮池のあるう海ふ蓮ことく
なる茅叢生せ根かゝたるを田伝ふ植て
年也濱茅を刈り重たる下の茅ふ
間〳〵に花をなすりとふ色の茅あり
刈敷を作り和て屋を葺ひ
作なとす〳〵
代遠ゝ八濱蔵屋敷ふ一名ふ
ゝ八花大形〳〵毎年二ツ作り

天ゝ人ゝ立て茅ふ充て合ふとそ
そ茅そそ屋根の躍ふとゝ海ゝね破屋形
傾きいとむ〳〵ひそ八屋と号人毎年
和ともゝ合とな〳〵ひ遠ふ抽ゝ
ゝそ茅とす〳〵ひ詩と家多時そ茅
とふ方言ゝ茅ふ入毎ゝ屋ゝ
て夢ゝむすそ濱
代年茅そふ根の茅を釣垂海ゝ濱茅の

寄ものかと見やりて病まるとぞ病の
名をぞふかとかこつ事を少さすれば松の葉を
ぬきて思ひてい厄神と下ろうやと
一笑
厄神と酒のせんを恐れん松原門を
よけてすぎれい
十方曙濱松を初てりてるの川橋とも
能いと道の傍面よりふ蓑を多く植り
刈て蓑ふ製法色々あるを第也ふ
遠列蓑を花つくかの蓑作勢ふ傍紙
しとそ
たのをふ味ふ京花近しといふ
神祖の武田家と合戦あり古源
なれと宿守れし志賀くとを
美濃川水そやきこて矢のもり船
ちうて向の河原ふ葛ぬ花のもふ

多くの木多し河原に草棟樹はり
芝生の間ふみやこの系のいと美ふ咲る
あるこれ計ある就ともそを御ふ見
ふかるるす

天龍渡

天龍渡白倚扁舟　山影浮天々倒流
應是蜿蜒蜒跨雲勢　放歌同棹賦仙遊
池田宿八名のみふて小家もなくなる

湯宿墓とてなんとかすしのみ小村なぬ
中家と昔を躍るがと今小家和わ
此ふ小村なりまて濱松より又牙を
左往宿八町とやいと遠き躍沢
なりなり
又牙の板より宿を又宿家形
初く茶屋の雪を望なり
目ふ見ゆ宿を又牙の新田

見付の臺に張の布を着て尾張流
俗ふたゝび忠勝の勇して甲冑弩
用を強るせ一如を見えいとめう
袋みゆるとうとふ布の花文席
を製せる森右衛門尉系を赤系ふ
係るて竹系をもつて家ごふ
小女縄車のめくるわして席を織る
布を手にくるくるふらはつ

旅人

賞とゝあるを荷物小原紙を行
魚川の縁を通せは葛布をうるを家
てひ茶のち意とそいふ芋をねぢ紙て
裏根ふ用いしたは稽小製一形ふ
絶美服と頃時移りのかれ頃あこれ
のをふあ頃
男根川を信ををてたのをふいてふの
右未を考百人ふそへて以来つみ比り

そゝき茶渋葛巻和泉寺ゑの凍ゆき
こ儀ふとき高爪の東経ふかく達
しは原陣陣の時のとふやうす村杖
やうらん芳ミ来る
はうり焼の田姓ゝ細とはふ本新り風
土の浮光寒苦をとうみ浮在人々帰姑
勤破をみ仲あしき衷のゝあしとる邑路
もかゝしゝるゝ京ふ筒窟あり

光慮ゑの曙犯す夜の桜をよりわれし
京の人諸々のとるゝ進ミハ此義の本ふふ
混更あて人浴して痛剱信その
タタし私ふ硫黄の事を常とそ
目段ふ以れて坂の逸る家たら並ハ
厳鉢をとらて三益林ふ誂ゑをと
依疫の仲山ハ嶺を抑て妓揺ありわき
めのえしふあ免をみて然ま出る縁

人を呼い行方をたずねて
子をたての親者共の仕ふを
母の他をむこへいかの物仕ふ
山の中松のこずえ
えぶきまれと共に
ちりて撃の打
よりねよこをうふきと
の物人の道の
ふかく
方とぞ

なんねてふたけて
旅こそもるの道ふ
ゆめもむまいね
菓川を物とその
京行の物
左ふ
手ふ
よ
ちや
孔雀
俊臺

あれふう
今宵は通行人 大井川渡り
ぬとのしるべ夕ハはあらしかと
とのみ時雨ふる屋と恨む
袋ふりそそぐふる人 遠の、かとおすす
きをかれぬ秋の面影 旅人とそ海う
ぬ袖と寄とあれはとふ入ぬ袖
ひとそ今あれは明ハはとふ(ろん)と

ふる
ふるさと名ハ海うそと岩ハ同像
とたふ川と城あるとさのと深う浦海
こ肩樂をさ山多ものをわけ
海うぬ浦まれ荒い(ら)是は
ふそ初海を是とて濡ふ(ら)して
海う付きまへて年あるの年三弾を
旅ひ小河ふ病者とろく旅人の

屋敷ハ祭礼ハ神祖東武ハ御營を
ト〻して下乃諸侯朝覲の職を修
始終之光景可ハ有之哉と
ふ浅草ハ東ハ吉井川関東迄
極人ハ茶屋に生涯
と云ふ義朝より能よなと始終
されと諸味の作ハ今日作味
毎ふ長屋諸侯と書付

加々の味と新しく有人の言を以智ハ
潮汐の深浅ハ味ハ味なと物ハ
三百年ハ吉井川を通ハ諸侯の
地ハ始ふ源頼朝より刈ハ年
前と云ふ古へ通ハ
人の云ふ考へ
只しふ西浦と
第未の常和古

夏すゝり影の移ゑもちゆ 給
宇津如山夜てけつの雲ハ旅寝く
ありね宿ん津ふ葉泉なれと数多
見へそれと出ると夕ア金谷小夜
過は明組家　君に謁せんと府
また急ぎ行盧原あまは口張ゝ行
そは済もらし読めて蔦の下にも
こひて急ぬタとかくなき

家なれねいそくあふらんの上
うつゝにへし蔦の下こそ
山の中別れ来し数多鳴帰傳家
ひとしへて帰り給てそらくぬれし
宇津の山越しみて若よりゆきます
口女物云てと此宿に逢たりは
阿部川を渡ハ解ら日店を家に大
ある探綱行そに京ち月なる夜過

紫風東溫腰なる紙生長せ人ゆや
河邊川茶すしく〳〵て一武蓋を賜ふ
公和を道の殊枝 御衣なて家てふ雲
仕り 千歳ハ府年ふそ海ゆ和町の
いとそうかなり 宮や 神祖花裏
の地そ一ふ人ふ山もて芸乗の藩
鈴ふ可の赤蕪 佛さ〳〵家府
の形鶴ゆう仕 如五の野をうお滿原ふ

只ふ塩ふう
十家の鶴鶴二根〳〵れハ家を初ふ
邦君家ふ尾の松鎧ゆそ海う
ふしハ出てセ宮遠浜て留〳〵
ふを急ふ初ふを仕ふ仕ふ
ふを月過ふ色とけは見し海
浜かとなく先垣の人ふ遠ふの侍
小伏侍ふ近侍の〳〵猪〳〵て三ふ

まふさきより汐越へかゝりて別ぬ霧
より海寺をきしかれもれ海辺より
始りやね
汐越より奥津へ行るの左右
つんる称形称なりすといふなり
見えの浜こねきみえて浜え浮奥津
かんて天間さま侍る
浜ん浜の気をゆり抽のつ里三保（ミホ）社

松原雲に清見寺海面きて帆釣忠
行き日本の三絶景とは寫え
今り清見寺之景見えやと心えよ
みしかと同徐に座ゆくりなす行る
塩はとうし茶店小休らて見月
読るをうそ　海面を詠く
清見寺ととまて行人を見て
かすまれ塔さを関尾そるみけ近

潜見寺旗亭賦所見

津亭依断岸危石擁盤盥帆影雲同滅
松濤浪共和滄溟愁外闊青嶂眼中多三
浦連煙霧孤帆疑羽客過
以遠望蓬山夢荊子今何地
のこりなくうるわしく
きるかぶ沈桐多なり長うして
人相て家を出て事世を捨て倍ふぐ

あるいは本草に名荏相とふ俗ふかい
夏至黄株樹
作株樹かと
今を生ぬ茶頭大戟美活の数を
今もうるわしく置茶と呼ぶ
ぬ株をもれは
態ねは真下せい
て男浪の民の

[illegible]と[illegible]は[illegible]漫[illegible]て極[illegible]
[illegible]山[illegible]ふ[illegible]の[illegible]の[illegible]人の
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]と云る
[illegible]
めるに[illegible]ふ[illegible]神[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

出は[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]川[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪をそへて立し姿をも富士の川より と
よそれしのとよて風景におもひしと
物絵ありさまをしらるゝにつけて見
山の山ふく空景にうつりしと見ゆる
東路の海辺に青葉にすぬ人々を
よそにみえるしは謗にふ
なかく入は旅立て旅衆をとらるゝを見し様
爲し

高しとハ何にたとへんとて雪の
ふし　にはいろえ　云の称おすし
三のふ富士をとりて氣は
真そてはしに及の外のりんと
そをれ山の姿はうりあをえ
氏をあし高多えと一日に見候
三のふ空ふのねうふに雲をれて
在京にえんにふや富士の高さ雪

韓昌黎う衡山の詩に出てかく
なん給ふ

富士山

東海名山何處求　孤峯突兀壓神州
晴嵐衣傍峽中横　積翠長連島上浮
御恩欲飛雲萬里　郢歌不斷雪千秋
遠遊物識君恩重　勝地看来慰客愁
花香山路多　雨の人行ふ

若しも年老て東海滿
とも遊ぶ　東都の今を
牧の方にて　年の暮
れにやこゝに　東の一定
まれる　騒人ありて　漢の涯
法の　とかや　とかや　東市場
あらしの二人の　懸屑裏紅

縁なして磨きて白油を塗きさしを
嗅ひは生まれを艶なり此家行
蒼白蘇何よふ有りて人不足
七なると述べて家にては一つも飛付
らすと答へし特物京に白蘇は雪
物のとと記せし此家叢倣し
なる哉なや
京ミては蒼くは笹漆父の出家

根来塗ハ出家衆に集り塗と號す香気
ゑひの杉香のことく 漆のいろ黒し むらく いずく かしら 麦茶きる
有りの ちささ物 むら 葉うとの花 たまるのふ似たり 生なるを切ると 名物
又ゑびの鮒 鮒に似てるく 形のことし あしめ魚 ゆ茶に
わし備 魚是や かい老 北なり 魚ひは似て ろんで乾しる
をそとら いとみけ かきなり
此あちりよりうき海の京とゐん家
て其とふ琉球野なり 道の後ふ

[illegible]
東の宿ふたもぬ[illegible]
の人多くかよひあり
[illegible]の咲 東海[illegible]
いまれ[illegible]
[illegible]
いとあはれなり
黄瀬川[illegible]

[illegible]
小[illegible]
[illegible]
従[illegible]
しいん

黄瀬川頭[illegible]鶴姫
女[illegible]家本有[illegible]蛾眉斧
三浦の明神[illegible]

古墳空在驛亭垂
伐盡國家千載基
[illegible]

やしろ立ちの義和の山ふかきなる
三峰より山本とハかるが故に
ちんと佐なる人のふかきを登
ぬ初意の意とて道は洲庭和尚
相の形屈世ちう三業あるとふ
雪窓うく者の二ハ是三論明仏者
日蓮和尚迦葉の法門依ちう箱根と
三嶋ハ父子ふ[illegible]ちう義和は

[illegible]神也ちく海もの[illegible]大神宮の
ちうを作り洲のもふ[illegible]の三
海の神春日也[illegible]
ちる風土の流い和漢共ふ[illegible]年
[illegible]
女中此道業庶ふ[illegible]
[illegible]の傍ふ相色[illegible]
業[illegible]大戦黄精　天魔星

多くありといへともしき未熟は
らぬと未熟なるものなれは猶
葉根の端なそらの急は湖中に而抛る
其頭ある中に而あまり不行き須一種也
抛あり気味いそ合せんとせし不
茶の湯のいへるは妙味ありしく人を
害あると制せしは止ふき
関とあれはさいの河原にて十辻堂立

ましは縫来気なしにて依外とは
此環に依然の河原にて在へ返魂
葬送の地あつて延長式にみへたり
手絶に兵へ地蔵をや無造之
後人誤りてさいのかはらは冥途の
なりとはいへかるる謬説をなせし
此亦は葉根積翠の地にて湖水の辺に
人を葬りたる地なれは河原浮屠の称也

と信してかゝる荒庵の庭に付へし
ぞかし
湖水ハ濁りとて海のことし山の絶頂
にかくそへしとはかのひとすし須
諺のれかる
林木生りしの来坂
左すとさのミ険しからず石高く
数千里を過ぎし好僕等帰依
出で来りてあるミなをや老の出年

余定く雲の外に手を取に落つゝ綴
私あれど若木すきを浮きに迷ふ道に
山あく いかなる 十姉妹の花咲
こうせつ 葉根らつきと夜あけ
しかして小人あきとしてされぬ時鳥
数多 時侍るもあつきに悔まし
畑の茶店ハ縁に縁して 見えまさ
あのとなをそる人へ様へとよふ草原

雀の鳴うめ
湯かゝ小ゝ元さ如蕎麦とうゝ蛇蕎麦とゝ
物ゝ蕎麦体大地の死セ　蕎麦
とゝゝゝゝゝゝゝゝ烏賊骨の長さめく
絶て腹ゝゝゝゝ山のゝゝゝ蕎麦
ゝゝ物小ゝゝゝ朱倪讃ゝ和草彙言
有新蕎麦石類ゝゝゝゝゝゝ
発ハ和漢大小新蕎麦ハ石蕎麦

陶隱居孫思邈ゝ蕎麦道家者流也　邪化
渺茫の説ゝゝゝゝゝゝゝゝ
石仙ゝゝの右ゝゝゝゝゝゝゝ
て来ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
京の城と圍繞　明　白堤の位置
小田原ゝ別名ゝゝ豊太閤の小田
原ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]のうち[illegible]小[illegible]ぎて[illegible]体ね[illegible]
あるべきて[illegible]製[illegible]るいとも
[illegible]てたてこと[illegible]する[illegible]の文[illegible]なるふ仏さ
[illegible]は四[illegible]ふく[illegible]ぬ[illegible]つ[illegible]て夜
[illegible]て[illegible]をあつ[illegible]句川を[illegible]川[illegible]
[illegible]かる[illegible]たて[illegible]
[illegible]や[illegible]ふ[illegible]足柄[illegible]
[illegible]道[illegible]

[illegible]ふ人[illegible]を[illegible]
[illegible]柄[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]して[illegible]
[illegible]の茶[illegible]
[illegible]ふ[illegible]行[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]子の[illegible]
[illegible]

筆にましと文を眼みかへりかき
けれ共はむなしく ちね、
ゆるさ身やむにいまそ
きまふ川けとこて色地は
虎ゟ石ハ大磯躁沖の寺にはりしを
ときとけれへ特にて冥帳せしに
寒ゟ鉄おく貴男を償ふるあつ寂
して石を投て示けられハ石ハ化つ

の寺にあて返さ大磯にほり
てこそくそそんふてえしあ
ちを示にありてハ常の石と苔りるさ
眾人の如くと言ふもしなくくひ
老ふるか
此虎石のかたもさるりて大磯
石とつふ是なり 大磯はり戸坂
また此虎返ハ菖蒲刈子 蓬摸村

左の花其し挿ハなき弥生人ハ伝ふ
本にさゝて松葉のめふ小葉の薑
けふ桔梗小似て細葉ふ桔梗ふ
似て植て細めし花え四辨咲
葉色菫乳小叢り生し仏咲なて
トこ小似て葉を結ふ古根のめし
宿根かり生まめる挿ふあしけれと
いふ挿と是ふ宗と行ふ人な

四季二百花遊ハ細ふ夜陽風をとゝろく
作り様依而蕙作る葉ふなく薑
むらされ小てハとあらしハなき改ハ六
撮ふ其侍らぬ人ふハ花をしく山作
そのされは借るへハ述れ深き
ぬ褪ふ岩ふつきぬ菊のあさえ置
て思ひたまし明日の路　在られ
遠く高きを高きの中ゆとあふむ川

[illegible]日の[illegible]氏何係[illegible]ふ[illegible]ち不
[illegible]やうきもち[illegible]なるとさのこけ[illegible]
[illegible]神と大海[illegible]ふ[illegible]海のりを[illegible]
[illegible]とをとをとを[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]や一[illegible]不[illegible]

[illegible]とをとて神奈川[illegible]
[illegible]むとは[illegible]
[illegible]
神奈川[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

戸の邸館より入御之始也
湯あみ之儀
之事

寛保辛酉八月上六日写之

僧義門